

## 1 経営理念：「本気で取り組み常に一流をめざす」

本校では、平成21年度から「本気で取り組む」を経営理念に据え、平成25年度からは「本気で取り組み一流をめざそう」という合言葉の基、学校職員、児童が学校づくりをしてきた。

この経営理念の根幹には、約150年の長きにわたり地域の人々が一貫して学校環境を整え、「質実剛健」を目標にして進められてきた教育活動がある。その後も個々の児童が実現したい願いや解決したい課題に向かい、対象と心ゆくまで関わり、生き生きと自己表出し、自らの力で解決しながら学ぶ喜びを味わうことのできる「楽しい学園」づくりと、心身共にたくましく、心豊かに自立する力を身につけることのできる「豊かな学園」を目指した教育活動が進められてきている。

本年度は、この経営理念に沿って経営ビジョンの見直しを行った。来年度からの新学習指導要領実施に伴い、「本気で取り組む」を主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の観点からとらえ、子どもたちが自ら、友と、地域に学び、本気で取り組む授業ができる学校にしたいと願っている。

## 2 めざす学校像：本気で取り組む授業ができる学校

「今日は楽しかった。明日も学校に行きたいな。」子どもたちが学校生活を楽しいと感じることが学校教育の基本であると考え。そのためには、子どもたちが自ら学ぼうとし、友と学ぶ良さを感じ、新しい経験につながる様々な事象に触れる学習の場を設定することが大切である。それが日々の授業として機能していくことになる。

西小スタンダードである「はじめに目標（めあて・ねらい）を明らかにする」「自分の考えを発表したり友と聞き合ったりするなどして学び合う」「学習を振り返り、成果を共有する」を全学級で実践し続け、充実した学習の場を積み上げていきたい。

さらに、新しい経験や体験を十分に味わうために、地域の方々と協力して地域教材や本物に触れる機会を増やし、発見や驚きのある学習の場を増やしていきたい。地域の方と学校職員が共に学習を進めることによって、子どもたちの学習の幅が広がると共に子ども、地域（保護者）、学校のつながりがより強くなると考える。自ら学ぶ・共と学ぶ・仁科の里（地域）に学ぶことを通して、将来、ふるさとを愛し、社会人としての自覚をもって生きる人になってほしいと願う。

～将来「社会人としての自覚をもって積極的に生きる」

「ふるさとを愛し大切に作る心をもつ」子どもを育てる～

主体的に学ぶ力、学び合いの力の育成を図るために、「授業づくり」「心づくり」の2点について重点的に取り組みたい。子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる学級、共に認め合う集団をつくり、学力・体力の向上を基盤に誰もが主役になれ、友と学び合える授業づくりを大切にしたい。